

営農情報(令和6年11月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■温州みかん

本年は、夏季の異常な高温と干ばつにより、果実の肥大は抑制され小玉果が多くなり、また日焼け果の発生も見受けられました。収穫時には、商品価値のない果実は廃棄して品質の確保を図りましょう。

◇収穫

- ・開花が早く果肉先熟となっているので、着色の進んだ果実から始め、分割して収穫する。
- ・貯蔵する果実は次の対策を徹底する。
 - ①収穫前の薬剤散布を確実に行うこと。
 - ②果実にハサミ傷等をつけないよう丁寧に扱うこと。
 - ③雨露を避け、天候が良好な日に収穫すること。
 - ④コンテナ等収穫用具類は、洗浄等で清潔にしておくこと。

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
発生時	カメムシ類	スタークル(顆水)	2,000	前日	3回以内
		ロディー(乳)	2,000	7日	4回 "
発生時	ミカンハダニ	ダニオーテ(フ)	3,000	前日	1回
		オマイト(水)	750	7日	2回以内
収穫前	貯蔵病害	ベンレート(水)加用	4,000	前日	4回 "] 併せて3 回
		ベフラン(液)25 または	2,000	前日	
		ベフトップジン(フ)	1,500	7日	
	(固着剤)	(アビオン-E)	500~1,000	—	—

注1) ベンレートとベフランの混用は、ベンレートを先に溶かす

注2) アビオン-Eは、薬剤の前に最初に溶かす。

注3) 薬液が霧状になるノズルを使用し、果実中心に散布する。

注4) 散布後100mm以上の降雨があった場合は再散布する。

注5) ベフラン(液)25とベフトップジン(フ)については、今期までの使用となります。

■うめ

- ・冬季剪定は11~12月の休眠期間中に行う。
- ・施肥は、11月上旬~12月上旬に窒素成分で6kg/10a 施用する。(例:ニュー梅配合=50kg)
- ・休眠期に苦土石灰100kg/10aを施用する。

■キウイフルーツ

◇収穫

- ・収穫前には貯蔵病害(灰色かび病)防除を必ず行う。
- ・収穫は、11月上中旬が適期になるので遅れないようにする。
- ・早期軟化や腐敗を予防するため、丁寧に扱う。収穫後は24時間以内に冷蔵貯蔵する。

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
収穫前	貯蔵病害	ロブラール(水)	1,500	前日	4回以内

■タマネギ

◇定植準備

- ・定植の目安 (早生=11月上旬、中生=11月中旬、晩生=11月中下旬)
- ・堆肥または発酵鶏ふん、苦土石灰、BMようりんなどの土壌改良資材を植付2週間前までに全面施用し、よくなじませる。発酵鶏糞を施用したら減肥する。
- ・元肥は、定植1週間前に全層に施用する(例:S555=60kg)。

◇植付け

- ・理想的な苗姿は、根元の太さ6mm程度、草丈25cm程度。
- ・根が深く張るため、露出しないよう2~3cmの深さに植えつけ、十分に灌水しておく。
- ・株間は10~13cm程度とする。
- ・定植後、雑草防除のためトレファノサイド粒剤2.5またはゴーゴーサン細粒剤Fを散布する。

■なのはな

◇摘芯

・側枝の生育を揃え、安定した収量を確保するために、頂花蕾が見えかけたら摘芯する。

◇施肥

・地温が下がると肥料の効きが鈍くなるので、早め早めに追肥を行う。
 ・追肥は、適当な水分がないと根から吸収できないので、土壌が乾燥したら灌水する。

	対象病害虫	薬剤名	散布濃度	収穫前日数
なのはな* (なばな類)	アブラムシ	スタークル(顆)または パダンSG(水溶)または トランスフォーム(フ)	3,000倍 1,500倍 2,000倍	収穫3日前 収穫7日前 収穫前日
	コナガ・ハスモンヨトウ	アファーム(乳)または ディアナSC	1,000倍 2,500倍	収穫7日前 収穫前日
	黒腐病・軟腐病	カスミンボルドーまたは コサイド3000	1,000倍 2,000倍	収穫14日前 —

※非結球あぶらな科葉菜類に登録がある農薬は、なのはなに使用できます。

※農薬ラベルには「なのはな」ではなく「なばな類」と記載されています。

【役場からのご報告】

去る9月27日(金)に、「ふれあいの里さかもと」にて勝浦町若手農家研修会が開催されました。

勉強会では、農村RMOの話の聞いたり、町の農業施策について意見を交わしました。

その後、野上町長も参加し、BBQによる交流会を開きました。

同じ町内で営農する農業者でも、若手が一同に会して集まる機会が無いこともあり、昨年度からこの研修会が始まりました。50歳未満の農業者を対象としており、今回は12名の参加でしたが、来年度以降もお彼岸明けのこの時期に開催したいと考えています。対象となさ方は是非ご参加いただけましたら幸いです。

【いきいきファーマーズ視察報告】

10月8日(火)に勝浦いきいきファーマーズで香川県の(株)四国総合研究所を視察しました。

まず、近赤外光の照射による青果物の鮮度保持技術「iR(アイアール)フレッシュ」についてご紹介いただきました。近赤外光は可視光(目に見える光)より波長の長い光で、テレビのリモコンや防犯カメラの照明などにも使われています。収穫後の柑橘類に短時間照射すると、重量減少の抑制、2~3週間の腐敗果抑制、果実品質の向上(糖度の向上、色素の増加、へた枯れの抑制やつやの維持など)の効果があり、複数の選果場に導入されているそうです。農家でのプレ選果用の小型照射装置でも、価格は300~500万円と高価であり、廉価版の開発が期待されます。



＜お問い合わせ先＞

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-